

## 大学入試改革について

○アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の策定と公表の義務化。

⇒「入口」から「出口」までの方針を一体化。可視化。

○AO・推薦入試における学力試験の必須化。

○e-ポートフォリオの導入。⇒高校時代の活動記録（部活動や生徒会、資格検定など8項目）をデジタル化して残すシステム。ポータルサイトに生徒、先生がログインする。生徒が高校生活の活動を記録し、先生も含めそれを振り返ることができ、その蓄積した「学びのデータ」を大学出願時に利用することができる。

2019年度入試において活用する大学数は、H30年11月末時点で110校（国公立20校含む）。その中で合否に一切影響しないことを表明している大学が100校弱（一般、推、AO含む）。

## 私立大学への波及

○早稲田大学政経学部の場合・・・

現行実施 →①外国語 90点 ②国語 70点 ③地歴または数学 70点  
※センター試験利用では5教科

新テスト導入後 →①大学入学共通テスト 100点（英語 25点・国語 25点・数学1A 25点  
選択科目 25点）

~~②英語外部検定試験 30点程度（予定）~~ ※英語外部検定試験のスコア活用を中止

③学部独自試験 100点（予定）→日英両言語による長文の読解

○慶應義塾大学の場合・・・大学入学共通テストの導入予定なし

○東洋大学の場合・・・一般選抜において従来実施している外部英語検定試験活用方式を踏襲。過去2年以内のスコアが有効。大学入試英語成績提供システムの利用は無し。大学入学共通テストの活用については、2020年度大学入学センター試験利用入試と同様とする予定（英語はリーディングとリスニングの200点満点）。e-ポートフォリオは一般選抜における合否判定に活用しない。

※以上、今後変更する場合あり。

2021年度以降の大学入試については、現時点で確定していない点が複数あります。また各大学・学部・学科において実施形態も様々です。その推移、進捗状況、決定事項などを十分に認識していきましょう。